

平成 14 年度自然再生事業（広里地区）の概要

表土剥ぎ取り試験

植生、地下水位、地盤高が異なる試験区において、表土の剥ぎ取りの深さを変えることによる植生の回復状況を調査。

写真 1-1,1-3

剥ぎ取り土量

439.5m³

使用重機

小型バックホー（掘削土量 0.2m³）

小型特装車（搬出土量 0.8m³）

写真 1-2,1-3,1-4

工事が湿原に与える影響を最小限にするため、工事に用いる重機は人力によって敷設されたアイスブリッジ上を通行

写真 1-4

搬出土砂は敷地内に仮置きし、今後の土壌調査等に活用

写真 1-5



1-1. 表土剥ぎ取り試験区の概観（試験区 3）



1-2. 人力によるアイスブリッジの施工



1-3. 小型バックホーによる剥ぎ取り



1-4. 小型特装車による土砂搬出



1-5. 農地跡地表土の断面

調査区の設定

- ・ B ライン上の 3 箇所に設置
植生・地下水位・地盤高に相違

- ・ 各調査区内に 4 タイプの処理区
TypeA：無処理（コントロール）
TypeB：地盤掘り下げ、播種無し
TypeC：地盤掘り下げ、播種有り
TypeD：傾斜掘り下げ

*播種はヨシの種子を利用

- ・ 各処理区内に 5 コドラート

- * 調査区（30m×35m）× 3 箇所
処理区（5m×20m）× 各 4 Type
コドラート（1m×1m）× 各 5

ハンノキ伐採試験

ハンノキ伐採により林床の湿原植生や地下水等の環境条件がどのように変化するかを調査

写真 2-1～2-4

伐採作業

伐採作業が自然に与える影響を最小限にするため、人力による伐採を実施

写真 2-5

搬出したハンノキは敷地内に仮置きし年輪調査等のサンプルとして利用

写真 2-6

調査区の設定

- ・ B ライン上の 2 箇所に設置
平均的な樹高に相違
- ・ 各調査区内に 2 タイプの処理区
TypeA：伐採区
TypeB：非伐採区
- ・ チェックプロット 2 箇所
B ライン、ハンノキ林縁
- * 処理区（25m×25m）× 2 箇所
小調査区（5m×25m）× 各 5



2-1. 伐採試験区 1（施工前）



2-2. 伐採試験区 1（施工後）



2-3. 伐採試験区 2（施工前）



2-4. 伐採試験区 2（施工後）



2-5. 人力による伐採作業



2-6. ハンノキ伐採木

関連施設等の設置

情報発信施設

事業地の映像をインターネットを通じて公開（仮設）

写真 3-1

高所作業車専用駐車場

タンチョウ監視に用いられる高所作業車のための駐車場（仮設）

写真 3-2

立入防止柵

広域農道側から広里再生事業地への立ち入りを防ぐための柵

写真 3-3

地下水位上昇のための堰上げ予定明渠

写真 3-4



3-1. 情報発信施設



3-2. 高所作業車専用駐車場



3-3. 立ち入り防止柵



3-4. 明渠堰止め予定箇所